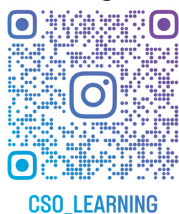


1 2026年度CSOラーニング制度が始まりました！

大学生・大学院生を環境問題に取り組む団体にインターンとして派遣する、「CSOラーニング制度」が今年度もスタートしました。2026年度は、全国5地区（関東・関西・愛知・宮城・福岡）の30団体に、51名の学生が活動しています。

今年度は、募集期間を4月中旬から5月中旬までとし、昨年に続きインターン期間を7か月間としました。昨年、活動期間を1か月間短縮しましたが、参加者の平均活動時間はこれまでと変化はなく、活動時間上限の200時間まで活動を行った学生もいました。応募者の皆さんが大学の授業スケジュール決定後にじっくりと検討できたことで、派遣先団体とのより良いマッチングにつながったと考えています。

募集期間には、宮城・愛知・福岡地区で地区別のオンライン説明会を開催し、関東地区では大学の授業での制度説明なども行いました。また昨年財団として初めて開設した、制度公式Instagramアカウント（@cso_learning）にて、より多くの皆さんに制度を知っていただけるよう、多様な発信を行った結果、応募者の4割がインターネットやSNS経由で本制度を知り、応募をいただくなど、SNS発信の効果も見られました。今後もインターン生の活動の様子などを随時発信して参ります。ぜひフォローをお願いいたします。



CSO_LEARNING

7月3日（金）に実施したキックオフ・ミーティングでは、インターン生は初めて顔を合わせる機会ということで、少し緊張した面持ち

の参加者も見受けられましたが、昨年に続き、全地区合同で開催したことで、地区を越えたつながりを感じ、本制度の特徴である「環境問題に関心を持つ同世代の仲間との繋がり」を早速実感してもらえた貴重な機会となりました。



キックオフ・ミーティングの様子

このあとは、8月3日（月）～5日（水）に全国合宿を実施します。活動開始から1か月後というタイミングでの合宿により、インターン生同士の交流を早期に深め、活動に関する情報交換やミニプロジェクトの活性化などを期待しています。

本制度は昨年度で修了生は1,453名となりました。「木を植える人を育てる」という理念を大切にしながら、時代の変化に対応した改善を重ね、これからも学生と環境CSOを繋ぐプラットフォームであり続けられるよう、運営に努めて参ります。また、昨年25周年記念として立ち上げた修了生コミュニティは、200名を超える方々に登録をいただいています。関西地区では、世代を超えた交流が行われるなど、交流・連携の輪が広がっています。現役生、修了生のネットワークを更に広げていきますので、引き続き本制度へのご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

2 環境分野の博士号取得を支援しています

SOMPO環境財団では「学術研究助成」として、大学院生（博士課程）の研究を支援しています。助成金を活用し博士号を取得された東京大学新領域創成科学研究科 宮澤美恵子先生にお話を伺いました。

Q1 博士研究の内容を教えてください

キリマンジャロ山の共有地で一世紀以上続くチャガ民族の自発的植林活動に焦点を当て、（1）森林保全（守る）と資源利用（使う）は両立し得ないのか、（2）なぜ植林等の保全活動が継続されるのか、という問いに取り組みました。具体的には、衛星画像解析と独自に収集した先住民600世帯の家計データ分析を組み合わせた研究に挑戦しました。

Q2 弊財団の助成金はどうな点でお役に立ちましたか？

主に、広大な対象地域に点在する標高約1600mの村々へ四輪駆動車で赴くためのガソリン代に活用させていただきました。世界の気候変動議論において、社会的立場が弱い先住民（自然資源利用者）の声やデータは圧倒的に不足しており、600世帯から直接聞き取りを成し遂げ分析に組み込むことは私の博士研究の要でした。

Q3 今後のご予定、今取り組んでいる研究を教えてください

博士研究では、「自然保全と資源利用が両立する関係性」には単一ではなく複数解（多様性）が存在することが示唆されました。現在は、この仮説を国内外のフィールドで実証的に検証し、その両立条件を明らかにすることを目指しています。将来的には、広く「コモンズの持続的な管理」のメカニズム解明に貢献したいと思います。



コーヒーの木と



調査員たちと



村落代表者への事前聞き取り調査

**博士号取得おめでとうございます。
益々のご活躍を期待しています。**

SOMPO環境財団がインドネシアで実施している海外版CSOラーニング制度「NGO Learning Internship Program」では、現在第8期生25名がジャカルタ近郊の環境NGO10団体で活動しています。インドネシアにおけるインターン活動の特徴は、環境分野に直接関わる事業にとどまらず、デザインや会計といった分野でも、それぞれの学生が専門性を活かして活躍している点です。

第8期の開始にあたり、2026年2月10日にキックオフ式典を行いました。

式典では、SOMPO環境財団の中村専務理事から、社会の第一線で活躍できる次世代の環境リーダーを育成するために、日本とインドネシアの両国で尽力している制度であることを説明しました。近年の洪水被害の一因が森林伐採による保水能力の低下にあることを引用し、正確な環境知識に基づく自然の修復と、地域社会に根ざした戦略の重要性や、学生たちの行動とリーダーシップが「真の多様性と包摂（ダイバーシティ&インクルージョン）」を促進して、自国の発展やグローバルなリスクの軽減に寄与することへの強い期待を伝えました。

また、現地で本制度の運営を行っている、公益社団法人日本環境教育フォーラムの阿部理事長にもご出席いただき、豊かな自然が急速に破壊されているインドネシアの現状が、日本のライフスタイルと直結していることから、一国では解決できない地球規模の課

題に対して、国やセクターを越えて協力することの重要性を強調するとともに、参加者が知識と経験を深め、個々の力を強力なネットワークとして結集させることで、環境問題解決への「未来の希望」として行動することへの期待のメッセージが寄せられました。

来賓として、インドネシア環境省Jo大臣付エキスパートスタッフにもご出席いただき、SOMPOグループの支援により8回目を迎えたことに対する謝意とともに、若者が将来的に環境のために行動する人材として育つことへの期待や、インターン生に対しては自身の専門分野問わず、国家課題であるゴミ問題に真摯に向き合うよう激励の言葉をいただきました。

第8期生は2026年9月までの8か月間、派遣先団体での実践を通じて環境課題や組織運営についての学びを深めていきます。



キックオフセレモニーの様子

「市民のための環境公開講座」では、SDGsをはじめとする様々な地球環境の課題について、皆さまと一緒に学び、考えていきます。環境問題が複雑化・深刻化する現代ですが、自然の美しさに触れ、心豊かな暮らしを大切にしながら、サステナブルな未来へ向けた「明日からできる一歩」を探ります。

本講座はすべて参加無料のオンライン開催です。全9回の通常講座に加え、お子様にもお楽しみいただける特別講座も予定しております。詳細、お申込みは右の二次元コードよりホームページをご覧ください。

皆さまのご参加をお待ちしております。



Question

- ①. ラーニング生はどのような業務をしていますか？または、どのような業務をする予定ですか？
- ②. ラーニング生にはどのような期待をしていますか？
- ③. CSOラーニング制度について、お考えをお聞かせください。

01

一般社団法人コンサベーション・インターナショナル・ジャパン

榎本 明子 様



A①

CIが海外で実施する保全活動の情報発信、国内でのイベント運営補助、パートナーシップ形成に向けた調査などを主にお願いしています。いずれも、保全の現場と日本社会とを橋渡しすることで、現場の活動をサポートするような業務です。

A②

7か月間の活動期間を有意義な時間としていただくためには、専門知識以上に、主体的に学び考え行動する姿勢や柔軟性が重要となります。少人数チームの一員として積極的に活動し、ご自分なりの課題意識を持って取り組もうとされる方には、おもしろい機会となるのではないかと思います。CIでの実務経験を通じて、環境問題を以前よりも自分事として捉えられるようになり、それが将来の行動につながっていくことを願っています。

A③

20代以下の若いスタッフが少ない日本のチームにとって、ラーニング生から新しい視点や発想を得られる機会は貴重です。CSOとラーニング生の双方にとって学びと成長につながる機会となるよう、ラーニング生の得意分野や関心、問題意識を大切にしながら、バランスの取れたプログラムを共に作っていききたいと思います。

02

特定非営利活動法人日本ウミガメ協議会

松宮 賢佑 様



A①

活動は事務業務（データの集計、寄付のお礼状やグッズの発送、イベントの運営など）が主です。それに加え、夏はウミガメの産卵調査（和歌山県）、秋は全国大会（日本ウミガメ会議）に参加してもらいます。

A②

活動の多くがデスクワークのため、ウミガメと直接関わる機会は限られています。ウミガメの姿は見えなくても、目の前の業務が、どのようにウミガメと繋がっているのかをイメージして取り組んでもらいたいと思っています。扱う情報や収集されたデータの裏で流された汗、企業や個人から寄せられる温かい支援、それらとウミガメとの繋がりに想像力を働かせ、任される一つ一つの作業に心を込めて取り組んでいただくと嬉しいです。

A③

環境NPO・NGOと長期的に関わることで、表面的な体験にとどまらず、より深い学びが得られると感じています。その扉の先は、多くの学生が想像するより遥かに広い。だからこそ、限られた期間でどれだけの時間を使い、信頼を積み上げ、どんな選択と勇気を重ねるかで得られるものは大きく変わります。受け身にならず、楽しさを追う姿勢で取り組むことで、このインターンは、視野や価値観そしてご縁を広げる貴重な場になると思います。